

鴨川市教育委員会第1回臨時会会議録

1 日 時 平成28年3月4日(金) 開会 午後2時00分
閉会 午後5時15分

2 場 所 天津小湊支所2階会議室

3 出席委員 (1) 根本新太郎 (2) 村上修平 (3) 石井千枝
(4) 吉原里夏 (5) 野田 純

4 出席職員 (1) 庄司満治
※ 議事(1)については、学校教育課長のみ出席
(2) 石井利彦 (3) 吉田尚史 (4) 山口政美
(5) 羽田幸弘 ※報告(1)のみ出席

5 議 事

(1) 「平成27年度末管理職等人事異動に関する県教育委員会への内申について」

・野田教育長から「平成27年度末管理職等人事異動に関する県教育委員会への内申について」資料をもとに説明がなされた。

・質疑なく、全員の下承が得られた。

(2) 「鴨川市教育振興計画(案)について」

・庄司学校教育課長から「鴨川市教育振興計画(案)について」資料をもとに説明がなされ、質疑応答が行われた。

・根本委員長から、P3第1章、第1節、1策定の趣旨(1)計画策定の背景の「教育とは、・・・」の段落の文章については、主体はどこなのかがよくわからないので、再検討をしていただきたいとの意見があり、庄司学校教育課長から、検討するとの回答がなされた。

・石井委員から、P5最終行にある平成28年●月に策定とあるが、●は何を表すのかという質問がなされ、庄司学校教育課長から、3月となるとの回答がなされた。

・石井委員から、P15施策I-1幼児教育・義務教育の充実(4)一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を目指す特別支援教育とあるが、(1)から(3)は、「の推進」で終わっているため、ここも同様にしてはどうかという意見があり、庄司学校教育課長から、「の推進」を加えるとの回答がなされた。

- ・野田教育長から、同様にVI-1子育て家庭の育ち支援（3）学校における家庭教育についても検討する必要があるとの意見が出され、庄司学校教育課長から、検討するとの回答がなされた。
- ・石井委員から、P 19 I 学校教育「0歳から15歳までの連続性のある学び・育ちを重視した教育の推進」とあるが、学校教育の中で「0歳から」という表現はよいのだろうかという質問がなされ、庄司学校教育課長から、鴨川市の子どもたちの学び・育ちを連続したものとして捉え、今年度から設置された子ども支援課との連携によって、子ども一人ひとりのよりよい成長を考えていくとの回答がなされた。また、野田教育長から、これまで義務教育終了である中学3年生において「15歳の旅立ち」としての理想の姿を描いた教育を進めてきたが、その入り口は、幼児期であり、そこからのつながりを大事にすることが必要であると考えたとの説明がなされた。加えて、庄司学校教育課長から、これまでも幼保一元化、幼小連携教育を進めており、そうした中で、子ども一人ひとりに視点を当て、その成長を連続して見ていくことの重要性に視点を当てたものであり、本振興計画において重点として取り組みたいとの説明がなされた。更に、野田教育長から、図書館で実施しているブックスタート、おひざにだっこ、これらも、0歳から、あるいは就学前の子どもたちを対象にしたものであり、鴨川市においては、こうした取組を含め、0歳からの子どもの育ちをきちっと見ていこうとするものであるとの説明がなされた。
- ・根本委員長から、P 19（1）学び・育ちの連続性を重視した教育の推進の1行目に「継続的な学びを実践するとともに」とあるが、学びを実践するのは誰なのか、学びという文言で適切なのかという質問がなされ、庄司学校教育課長から、ここでは「学び」を「教育」と同様に捉えているが、文章の検討をするとの回答がなされた。
- ・村上委員から、P 19①保幼小一貫教育の推進の中の「一貫した保育教育」とあるが、こうした言葉があるのかとの質問がなされ、庄司学校教育課長から、保育教育という言葉は適切でないため、保育と教育の間に「・」を入れるとの回答がなされた。加えて、村上委員から、これまで鴨川市で行ってきた「幼保一元化」や「小中一貫教育」という言葉が見当たらないが、こうした施策の上に今があることを表現していただきたいという意見があり、庄司学校教育課長から、継続した取組であるので修正するとの回答がなされた。
- ・野田教育長から、P 20④保護者への支援については説明不足であるので、もう少し説明を加える必要があるとの意見があり、庄司学校教育課長から、説明を加えていくとの回答がなされた。
- ・石井委員から、P 23（4）一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を目指す特別支援教育の中で、①②③と項目で表してあるところがあるが、③の文末表現が適切ではないのではないかとの意見があり、庄司学校教育課長から、文の構成を見直し修正

するとの回答がなされた。

- ・村上委員から、P 2 2 ④でいじめについて触れられているが、本市で制定する「いじめ防止対策推進条例」のことが入っていないので、入れたらよいのではないかとの意見があり、庄司学校教育課長から、市の条例を入れた表現に修正するとの回答がなされた。続いて、P 2 1 ①確かな学力の育成の中にア) からエ) として4項目あげられているが、これは全国学力・学習状況調査の結果を踏まえたものかという質問がなされ、庄司学校教育課長から、全国学力・学習状況調査の結果や学習指導要領の重点等を踏まえ、本市の課題となる点について重点としたもの、また、市内全小中学校での共通の取組をするものとの回答がなされた。
- ・石井委員から、同じところのア) ノート指導については、タブレット端末や電子黒板などを使った学習を見ることも多くなっているが、じっくり書く時間を十分にとった指導をお願いしたいとの意見があり、庄司学校教育課長から、自分の考えを持つことやわかったことをまとめる等の力をつけるためにノートの活用について指導をしていきたいとの回答がなされた。
- ・根本委員長から、I-1. 幼児教育・義務教育の中で、中学校に関する表現が少ないように感じるがいかがかという質問がなされ、庄司学校教育課長から、中学校についての視点を持った内容を検討していくとの回答がなされた。
- ・石井委員から、P 2 6 ③バリアフリー化の推進の中に「合理的配慮」という言葉があるが、どういうことかとの質問がなされ、庄司学校教育課長から、つまずきのある子ども個人に対して行う支援の内容をいうものであるとの説明がなされた。
- ・村上委員から、地元の食材を使った給食の提供をぜひ進めてほしいとの要望があり、山口給食センター所長から、十分な量の材料が集まらないこともあるが、地場製品の積極的な活用を図りますとの回答がなされた。
- ・根本委員長から、アレルギーへの対応について触れておかなくてよいのかとの質問があり、山口給食センター所長から、食物アレルギーについての対応は、P 2 3の体力の向上と健康の推進の中で説明しており、主に学校教育の中で対応し、そこに給食センターも関わっているとの回答がなされた。
- ・石井委員から、青少年海外派遣事業が生涯学習課の所管となったが、帰国してからの交流の状況はいかがかとの質問がなされ、石井生涯学習課長から、現在は、ネットを介してのやりとりが積極的に行われているとの回答がなされた。
- ・根本委員長から、P 3 2 (3) 市民が学びやすい環境づくりの中で、「豊かな人材」という言葉は適切かとの質問がなされ、石井生涯学習課長から、知識や技術が豊かな人ということであるとの回答がなされた。
- ・野田教育長から、「文化施設」とは、どういう施設をいうのかとの質問がなされ、石井生涯学習課長から、公民館、資料館、ギャラリー等であるが、わかりにくいとこ

るもあるので、表現を再検討するとの回答がなされた。

- ・根本委員長から、P 3 1 ①大学等との連携による特色ある生涯学習プログラムの充実の中に、「市民と交流を深める」とあるが、誰が市民と交流を深めるのかわからないとの質問がなされ、石井生涯学習課長から、大学と市民が、例えば大学主催の講演会等を通して交流を深めることであるので、文章を修正するとの回答がなされた。
- ・野田教育長から、P 3 7 ①体制の整備については、説明が足りないのではないかととの質問がなされ、石井生涯学習課長から、青少年育成鴨川市民会議の説明を※印等で付け加えるとの回答がなされた。加えて、P 4 0 ②多目的施設の完成後の活用についてはもう少し説明を加えた方がよいのではないかととの質問がなされ、石井生涯学習課長から、もう少し詳しくしていくとの回答がなされた。
- ・村上委員から、P 4 5 ①各種スポーツ合宿・スポーツイベントの誘致とあるが、もう少し強くアピールすることができないだろうかとの質問がなされ、吉田スポーツ振興課長から、P 4 5 だけでなく P 4 3 ②多目的施設の整備の中でも表現しているとの回答がなされた。加えて、なぜオリパラの合宿誘致などを目指すのかということを確認にしてもよいのではないかととの質問がなされ、吉田スポーツ振興課長から、誘致による波及効果等についても表現していくとの回答がなされた。さらに、P 4 3 ①スポーツ・レクリエーション施設の整備の中に、鴨川市総合運動施設という名称があるが、その前に「南房総随一」という言葉を入れてはどうかという質問がなされ、吉田スポーツ振興課長から、そのように修正したいとの回答がなされた。
- ・石井委員から、P 4 6 (1) 基本的な生活習慣と望ましい規範意識の育成の中の表現は、前半が家庭を対象とした表記になっていて、後半は学校教育でのことが書かれている。後半部分は、家庭と学校が相互に理解し合い、連携して実践していこうというような表現にした方がよいのではないかととの質問がなされ、庄司学校教育課長から、そのように修正していくとの回答がなされた。
- ・石井委員から、P 4 7 (2) 親となってかけがえのない子育てを行うための教育の推進となるが、この題名については検討した方がよいのではないかととの意見があり、庄司学校教育課長から、「親とともに考える教育の推進」に変更するとの回答がなされた。
- ・他に質疑なく、次回3月24日の定例教育委員会議にて改めて議事として提出する旨を確認した。

8 報 告

(1) 「平成28年度預かり保育のしおり(案)について」

- ・羽田子ども支援課長から「平成28年度預かり保育のしおり(案)について」資料

をもとに説明がなされた。

(2) 「多目的施設基本設計について」

- ・吉田スポーツ振興課長から「多目的施設基本設計について」資料をもとに説明がなされた。

根本教育委員長は、一切の審議の終了を告げ、閉会を宣言した。

以上、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

平成28年3月24日

鳴川市教育委員会 委員長

委員長職務代理者

会議録作成者 庄司 満治